



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月14日

上場会社名 株式会社FRONTEO 上場取引所 東
 コード番号 2158 URL https://www.fronteo.com/
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)守本 正宏
 問合せ先責任者 (役職名)経理財務統括部長 (氏名)國枝 宏美 (TEL)03(5463)6344
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	5,722	△32.8	△635	—	△571	—	△1,073	—
2022年3月期第3四半期	8,522	12.7	1,393	—	1,403	—	930	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 △568百万円 (—%) 2022年3月期第3四半期 1,114百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	△27.30	—
2022年3月期第3四半期	23.72	23.55

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	9,997	5,637	54.7
2022年3月期	11,825	6,440	53.3

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 5,465百万円 2022年3月期 6,308百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	7.00	7.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	7,400	△32.3	△1,300	—	△1,260	—	△1,735	—	△44.13	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 - 社 (社名) 、除外 - 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年3月期3Q	39,315,562株	2022年3月期	39,314,062株
2023年3月期3Q	696株	2022年3月期	696株
2023年3月期3Q	39,313,880株	2022年3月期3Q	39,226,090株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは「Bright Valueの実現～記録に埋もれたリスクとチャンスを見逃さないソリューションを提供し、情報社会のフェアネスを実現する～」という企業理念のもと、独自開発の人工知能(AI)エンジン「KIBIT(キビット)」、「Concept Encoder(コンセプトエンコーダー)」及び「Looca Cross(ルーカクロス)」の3本を柱とする高度な情報解析技術を駆使し、祖業である国際訴訟支援、不正調査から製造、金融、小売、流通、そして医療分野といった様々なフィールドで、必要かつ適切な情報に出会えるフェアな世界の実現及び社会課題の解決に貢献しております。

ライフサイエンスAI分野につきましては、Medical Intelligence(メディカルインテリジェンス)領域において、論文探索を効率化する「Amanogawa(アマノガワ)」、分子や遺伝子の関連性を可視化する「Cascade Eye(カスケードアイ)」、そしてターゲット分子の科学性評価など複雑な評価指標をスコアリングする「liGALILEO(リガリレオ)」の3つのアプリケーションによるドラッグディスカバリー事業の拡大に向け取り組んで参りました。また、「Amanogawa」を用いた論文解析の新サービス展開に向け、世界的な学術出版であるSpringer Natureとの協業を2022年12月に開始いたしました。さらに、医療DX分野につきましては、自動分類・審査AIシステムである「Mekiki(メキキ)」が大手製薬会社で導入が進み始め、また、情報戦略支援AIである「WordATLAS(ワードアトラス)」に医師が関心を持っているテーマや処方・治療傾向などを可視化する新機能「メディカルインサイト」を追加するなど、Medical Intelligence領域の事業拡大に向け推進しました。

Medical Device(メディカルデバイス)領域における、「会話型 認知症診断支援AIプログラム」に関しては、第2四半期で公表しましたとおり、会話の音声を入力データとするプログラム(自動音声認識機能付きプログラム)の開発に一本化して、着実に開発を進めております。また、開発プロセスで収集された質の高いデータセットや開発ノウハウを活用した民生品につきましても並行して開発を進めて参ります。

なお、「重度転倒予測AIプログラム」、「うつ病診断支援AIプログラム」及び「統合失調症診断支援AIプログラム」などその他の製品につきましても、順調に開発を進めております。

ビジネスインテリジェンス分野につきましては、メール&チャット監査システム「KIBIT Communication Meter(キビット コミュニケーション メーター)」の受注は堅調に推移し、「お客様の声」の分析を行う「WordSonar for VoiceView(ワードソナー フォー ボイスビュー)」に関しても複数の企業との間で導入に向けた協議を継続するなど、当社AI技術の優位性は引き続き揺るがないと考えております。また、企業不正の未然防止に知見を有する弁護士などの外部の有識者と共同で「不正対策勉強会」を開催し、平時における不正対策の解説をするなど、不正対策における弊社のプレゼンスを高めるべく、セミナー活動を進めております。

ただし、営業体制強化に向けた人的投資の推進に遅れが生じた影響から、当第3四半期連結会計期間の売上高は、第2四半期連結会計期間の売上から横ばいで推移しており、当初想定していた売上高増加には至りませんでした。DXを推進する市場は今後も引き続き旺盛であると認識しており、今後も市場は成長していくと考えております。このような市場環境において、当社の認知度を高め、パイプラインを積上げることで、売上高を成長させるべく、引き続き人的投資を中心とした営業体制の強化を進めて参ります。

経済安全保障関連分野につきましては、2022年5月に経済安全保障推進法が成立し、官庁と民間企業双方での経済安全保障への関心が高くなっております。当第3四半期連結会計期間においては、「サプライチェーンネットワーク解析ソリューション」における新指標算出技術について、特許査定を取得しました。引き続き、各所各社のニーズを把握し、的確なソリューションを提供することで事業の成長を図って参ります。

リーガルテックAI事業は大型案件の積上げが少なく、当第3四半期連結会計期間の当該事業における売上高は第2四半期連結会計期間を下回り、低調に推移しました。人的投資による営業体制の構築や当社ポータルサイト「FRONTEO Legal Link Portal」を利用したマーケティング活動を通して、売上高の回復に向けて、顧客基盤の強化と拡大を図って参ります。

各事業の当第3四半期連結累計期間の概況は以下のとおりです。

(AIソリューション事業)

ライフサイエンスAI分野につきましては、アクセリード株式会社との共同事業「Druggable Target 1000」のプロジェクトが完了し、収益を得ることができました。また、医療・医学専門情報の自動仕分けを行う「Mekiki」及び論文探索AIシステム「Amanogawa」に関しても製薬企業への導入は着実に進みましたが、大型案件の積上げが少なく、売上高は343,661千円（前年同期比40.7%減）となりました。

ビジネスインテリジェンス分野につきましては、企業のDX推進の需要により、複数の企業で「KIBIT Communication Meter」が導入され堅調に推移した結果、売上高は1,056,056千円（前年同期比18.3%増）となりましたが、業績を牽引する大型案件が少なく、想定していた売上高には届きませんでした。

その結果、AIソリューション事業全体の売上高は1,409,564千円（前年同期比6.4%減）となりました。営業損益につきましては、人的投資ならびに経済安全保障分野に関する投資を戦略的に推進したことなどにより、137,920千円の営業損失（前年同期は320,739千円の営業利益）となりました。

サービスタイプ別の売上高の概況は下表のとおりです。

サービスタイプ別		(単位：千円) 計
AIソリューション事業	ライフサイエンスAI	343,661 (580,017)
	ビジネスインテリジェンス	1,056,056 (892,715)
	海外AI	9,846 (32,529)
AIソリューション事業売上高 計		1,409,564 (1,505,261)

() は前第3四半期連結累計期間の実績

(リーガルテックAI事業)

リーガルテックAI事業につきましては、eディスカバリサービスにおいて大型案件の受注が低調に推移したことに加えて、戦略的な非AIビジネスの削減により売上高が大幅に減少いたしました。

その結果、売上高は4,313,368千円（前年同期比38.5%減）、売上高の減少に伴い497,847千円の営業損失（前年同期は1,072,940千円の営業利益）となりました。

サービスタイプ別の売上高の概況は下表のとおりです。

サービスタイプ別		(単位：千円) 計
eディスカバリサービス	Review	987,169 (2,486,789)
	Collection, Process	466,841 (670,060)
	Hosting	2,146,232 (2,861,486)
	計	3,600,243 (6,018,335)
フォレンジックサービス		713,125 (998,823)
リーガルテックAI事業売上高 計		4,313,368 (7,017,159)

() は前第3四半期連結累計期間の実績

顧客ホームカントリー別の売上高の概況は下表のとおりです。

顧客ホームカントリー別	(単位：千円) 計
日本・アジア	2,699,640 (3,564,993)
米国・欧州	1,613,729 (3,452,166)
リーガルテックAI事業売上高 計	4,313,368 (7,017,159)

() は前第3四半期連結累計期間の実績

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高5,722,933千円（前年同期比32.8%減）、営業損失635,768千円（前年同期は1,393,679千円の営業利益）、経常損失571,573千円（前年同期は1,403,992千円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失1,073,158千円（前年同期は930,409千円の親会社株主に帰属する四半期純利益）と前年同期を下回る結果となりました。なお、非AIビジネスの戦略的縮小に伴うコスト構造最適化を目的とした構造改革費用として260,855千円、不正アクセス対応のための情報セキュリティ対策費として225,537千円を特別損失として計上しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

総資産は、前連結会計年度末と比べて1,827,856千円減少し、9,997,273千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比べて1,533,505千円減少し、4,407,895千円となりました。これは主に、配当金の支払、借入金の返済、インシデント関連の支払に加えて、人的投資やセキュリティ強化の先行投資を行ったことなどにより現金及び預金が1,698,424千円減少したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比べて294,351千円減少し、5,589,377千円となりました。これは主に、減価償却や米国子会社における構造改革に伴うオフィスやデータセンターの閉鎖により使用権資産が199,648千円減少したことによるものであります。

(負債)

負債合計は、前連結会計年度末と比べて1,024,346千円減少し、4,359,853千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比べて244,999千円減少し、2,354,841千円となりました。これは主に、借入実行により短期借入金が増加した一方で、未払法人税等が257,109千円減少、1年内返済予定の長期借入金が増加した一方で、リース債務が79,967千円減少、その他（未払費用や未払消費税等）が241,402千円減少したものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比べて779,346千円減少し、2,005,011千円となりました。これは主に、流動負債に振り替えたことにより長期借入金が増加した一方で、リース債務が157,212千円減少したことによるものであります。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末と比べて803,510千円減少し、5,637,419千円となりました。これは主に円安の影響により為替換算調整勘定が増加した一方で、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上したことや、配当による取崩により利益剰余金が1,348,352千円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期連結業績予想につきましては、本日、別途開示いたしました「連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

尚、新型コロナウイルス感染症の業績に与える影響につきましては、軽微と想定しております。

(注) 業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確実な要素を含んでおります。
実際の業績等は、今後様々な要因によって記載内容と異なる可能性があることを予めご承知ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,461,309	1,762,884
売掛金及び契約資産	1,830,228	1,223,343
商品	86	86
仕掛品	24,443	31,193
貯蔵品	2,302	2,808
その他	700,473	1,423,297
貸倒引当金	△77,441	△35,718
流動資産合計	5,941,401	4,407,895
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備(純額)	61,176	48,739
工具、器具及び備品(純額)	276,394	200,300
リース資産(純額)	13,212	11,494
使用権資産(純額)	353,450	153,801
その他(純額)	4,374	—
有形固定資産合計	708,608	414,335
無形固定資産		
ソフトウェア	1,016,614	858,731
のれん	1,403,025	1,383,226
顧客関連資産	1,278,802	1,255,016
その他	485,154	625,999
無形固定資産合計	4,183,597	4,122,974
投資その他の資産		
投資有価証券	853,414	920,014
差入保証金	120,932	117,487
繰延税金資産	5,269	5,487
その他	11,906	9,077
投資その他の資産合計	991,522	1,052,067
固定資産合計	5,883,728	5,589,377
資産合計	11,825,130	9,997,273

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	63,852	28,768
短期借入金	—	500,000
1年内返済予定の長期借入金	823,258	721,591
リース債務	367,550	287,583
未払金	193,530	223,623
未払法人税等	270,379	13,270
賞与引当金	125,538	79,044
訴訟損失引当金	84,990	71,621
その他	670,741	429,339
流動負債合計	2,599,841	2,354,841
固定負債		
長期借入金	2,374,792	1,728,199
リース債務	179,913	22,701
繰延税金負債	140,903	163,410
退職給付に係る負債	51,262	52,891
資産除去債務	35,233	35,517
その他	2,253	2,291
固定負債合計	2,784,358	2,005,011
負債合計	5,384,199	4,359,853
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,034,846	3,035,400
資本剰余金	2,771,993	2,772,547
利益剰余金	△140,203	△1,488,556
自己株式	△90	△90
株主資本合計	5,666,545	4,319,300
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	549,318	595,525
為替換算調整勘定	92,827	550,996
その他の包括利益累計額合計	642,145	1,146,521
新株予約権	132,239	171,597
純資産合計	6,440,930	5,637,419
負債純資産合計	11,825,130	9,997,273

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	8,522,421	5,722,933
売上原価	4,274,726	3,049,491
売上総利益	4,247,694	2,673,442
販売費及び一般管理費	2,854,015	3,309,210
営業利益又は営業損失(△)	1,393,679	△635,768
営業外収益		
受取利息	910	12,160
受取配当金	26,100	24,300
訴訟損失引当金戻入額	—	7,249
為替差益	26	33,910
その他	11,823	16,344
営業外収益合計	38,860	93,965
営業外費用		
支払利息	20,304	23,153
シンジケートローン手数料	4,124	2,916
その他	4,117	3,701
営業外費用合計	28,546	29,771
経常利益又は経常損失(△)	1,403,992	△571,573
特別利益		
新株予約権戻入益	59,828	26,726
特別利益合計	59,828	26,726
特別損失		
固定資産除却損	4,169	8,749
情報セキュリティ対策費	—	225,537
事務所閉鎖損失	122,246	—
構造改革費用	—	260,855
特別損失合計	126,415	495,141
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,337,406	△1,039,989
法人税等	406,996	33,169
四半期純利益又は四半期純損失(△)	930,409	△1,073,158
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	930,409	△1,073,158

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	930,409	△1,073,158
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,248	46,207
為替換算調整勘定	183,210	458,168
その他の包括利益合計	184,459	504,375
四半期包括利益	1,114,868	△568,782
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,114,868	△568,782

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	AIソリューション	リーガルテックAI	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,505,261	7,017,159	8,522,421	—	8,522,421
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,505,261	7,017,159	8,522,421	—	8,522,421
セグメント利益	320,739	1,072,940	1,393,679	—	1,393,679

(注) セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	AIソリューション	リーガルテックAI	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,409,564	4,313,368	5,722,933	—	5,722,933
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,409,564	4,313,368	5,722,933	—	5,722,933
セグメント損失(△)	△137,920	△497,847	△635,768	—	△635,768

(注) セグメント損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間に、「リーガルテックAI」において82,074千円の減損損失を計上しております。

なお、上記金額は、特別損失の構造改革費用に含まれております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。